

平成24年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	未来を創造する豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命) 小中一貫教育を通して、知・徳・体のバランスのとれた、義務教育を修了するにふさわしい学力と人間関係の力及びふるさとを愛する心を育成する学校を創造することを使命とする。
			<ビジョン> (将来の学校像) ・子どもも教職員も一人一人が自己存在感を味わう、笑顔あふれる学校を目指す。 ・家庭や地域の支援を得て、子どもの成長を喜ぶ、地域に開かれた学校を目指す。 ・創造に励み、実践を確かめながら進む、意欲と活気のある学校を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学校生活は大きな問題行動が少なく、比較的落ち着いている。 △生徒一人一人が自律し、集団の向上のために貢献しようとする意欲を十分引き出せていない。 ○生徒の授業評価アンケートでは、「よくわかる」において全教科平均で9割ほどが肯定的評価をしている。 △家庭学習時間が目標に達していない。学力の定着にとって、マイナス要因である。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・ 3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	8月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の定着を図る。 貫	○「この先生に学んで良かった。」と思える授業づくりを行う。 ○9年間を見通した授業づくりを行う。	・教えて考えさせる授業づくりを進める。	・授業の理解度の単元終了時における生徒の自己評価の肯定的な割合を85%以上にする。	85%	86%	101%	A	86%	101%	A
・家庭学習の進め方と効果を具体的に示し、「家庭学習をして良かった。」と生徒に実感させる。			・学年別家庭学習時間の達成率を70%以上にする。	70%	59%	84%	B	64%	91%	B	
・乗り入れ授業により児童の学習への意欲や理解力を高める。			・乗り入れ授業の児童の自己評価における意欲や理解に関する肯定的な割合を90%以上にする。	90%	91%	101%	A	84%	93%	B	
**	コミュニケーション力を育成する。	○誰に対しても気持ちよく挨拶ができる生徒にする。 ○生徒の「ことばの力」を高める。	・教職員自ら気持ちのよい挨拶を心がける。 ・立ち止まって、自分から挨拶する指導を徹底する。	・(立ち止まって)挨拶をしている生徒評価を85%以上にする。	85%	85%	100%	A	83%	98%	B
・読書習慣の形成を図り、感性、表現力、創造力を豊かにすることで、「ことばの力」を育てる。			・1か月に3冊以上本を読む生徒の割合を50%以上にする。	50%	63%	126%	A	59%	118%	A	
・「ことばの力」を発揮する場を生徒に積極的に提供し、効果的に評価していく。			「ことばの力」を発揮する作品募集等に1回以上応募する生徒の割合を90%以上にする。	90%	100%	111%	A	100%	111%	A	
*	生徒の自尊感情を高める。	○一人一人の生徒に視点を当て、笑顔でほめる。	・機会を逃さず意識して生徒を笑顔でほめ、記録する。	・「自分の良さは周りの人に認められている」と肯定的に自己評価する生徒の割合を80%以上にする。	80%	64%	80%	B	63%	79%	C
*	生徒の体力向上を図る。 貫	○生徒の体力・運動能力向上のための取組を行う。	・部活動の活性化を図り、準備運動等において体力・運動能力向上のための統一した取組を行う。	・長座体前屈平均を上回る生徒を70%以上にする。	70%	53%	76%	C	67%	96%	B

[k: 評価]
 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

平成24年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の定着を図る	<p>○「この先生に学んで良かった。」と思える授業づくりを行う</p> <p>○9年間を見通した授業づくりを行う</p>	<p>「この学期の授業内容は分かりやすかったですか。」全教科平均86% 教科によって多少のばらつきはあるものの、生徒は概ね授業に満足している。</p> <p>「学年別家庭学習の達成率」64% 各学年とも、平均値が目標時間に到達しているが、目標時間を超えた生徒は64%にとどまっておらず、家庭学習の必要性を全ての生徒に十分理解させ切れていない。また、極端に学習時間が少ない生徒もおり、家庭学習が習慣化していない。</p> <p>乗り入れ授業(国語・算数・外国語活動、音楽、図工)における児童の意欲や理解に関する肯定的評価の平均84% 生徒の記述から、児童は概ね授業に満足していることが見てとれる。しかし、教科によっては、難易度が増し、苦手意識を持ったり、学習規律がより厳しくなり、授業への期待度が以前より下がったりした生徒が増えてきている。</p>	<p>来年度は、研究主題を見直し、生徒のこぼの力を高める具体的な取組によって研究授業及び交流授業を促進し、教員の授業力を向上させることで、生徒の学力を高めていく。</p> <p>次時の授業につながる課題を出すことで、家庭学習時間を増やし、やってよかったという充実感を持たせ、学習意欲を向上させる。</p> <p>学習規律は維持しつつも、授業に工夫改善を加えながら、楽しくわかりやすい授業を今後も目指していく。</p>
**	コミュニケーション力を育成する	<p>○誰に対しても気持ちよく挨拶ができる生徒にする</p> <p>○生徒の「こぼの力」を高める</p>	<p>「お客様に対して立ち止まって挨拶するように心がけています。」が83%であった。生徒の様子を見てみると、視察に来られたお客様などに、積極的に挨拶する生徒は以前より増えた印象があり、「挨拶」に対する意識は「高い」といえる。「立ち止まって」という部分が不十分で、このような数値になったと考えられるので、今後は挨拶の質の向上を図りたい。</p> <p>朝読書を含め、1ヶ月に3冊以上本を読む生徒の割合59%で、朝読書及び図書委員会の取組等により、目標値を上回っている。 生徒の「こぼの力」は、自分自身を客観的に見つめ、相手との円滑な人間関係を構築することや、学びの充実に大きく関わっている。生徒会活動や異学年交流、立志式などの機会を通して「こぼの力」を伸ばした生徒が多い。反面、「こぼの力」に課題がある生徒の割合も高い。 「こぼの力」を発揮する作品募集については、全ての生徒が提出した。</p>	<p>朝会で呼びかけたり、生徒会執行部・委員会の活動と連動させたりして「立ち止まって」の挨拶を校内で徹底させる。また、教職員自らが気持ちの良い挨拶を心がける。</p> <p>引き続き、朝読書及び図書委員会の取組を推進するとともに、読む本の種類が、中学生にふさわしく、こぼの力がより高まるような内容の図書を選定するよう指導していく。 また、小中一貫のカリキュラムの中で、お互いの言葉を鍛え、校内に確かで誠実で豊かな言葉が響き合うような意図した取組をさらに進めたい。</p>
*	生徒の自尊心を高める	<p>○一人一人の生徒に視点を当て、笑顔でほめる</p>	<p>小規模校の良さと、教職員の誰かが提供する話題に登場する生徒の喜びにも哀しみにも共感し合い、自分の立場で彼らを受け止め喜び合い、フォローできる。 「自分の良さはまわりの人から認められていると思う」生徒は1学期と比べ伸びなかったが、数値に表れない自尊心の高まりが感じられる。</p>	<p>各教科で「生徒指導の三機能」を生かした授業づくりを行う。また、特別活動などで、対人関係能力を育成するための取組を計画的に取り入れて、共感的に思いやりの行動ができる心豊かな集団を育てる。中1ギャップが小5ギャップに移行しており、ここに手立てを講じる必要がある。</p>
	生徒の体力向上を図る	<p>○生徒の体力・運動能力向上のための取組を行う</p>	<p>長座体前屈において、県平均(H23)を上回る生徒 7年男子 81% 7年女子 60% 8年男子 60% 8年女子 59% 9年男子 69% 9年女子 63%</p> <p>県平均を上回る生徒が平均67%で、14%の伸びがみられたが、依然として柔軟性に大きな課題が見られる。</p>	<p>長期的展望を持ち、保健体育授業時、及び部活動における柔軟運動を継続して取り組む。また、月1回のノーゲームデーの推進、長期休業中の課題(ストレッチ)により、自ら積極的に体力向上に取り組もうとする意欲と態度を養う。</p>

平成24年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	生徒の自尊感情が、わずかながら低下しているが、自尊感情をみとる指標が、「自分の良さは周りの人に認められている。」という一問の質問紙では、正確さにかけるように思う。正確度を高めるための工夫が必要である。
目標達成のための方策の適切さ	B	地域では、子どもたちがなかなかあいさつをしない実態がある。立ち止まってあいさつすることも大事だが、それ以前に、元気よくあいさつをする子どもを育てる必要がある。学校と地域が一緒になって、挨拶する警固屋の子どもを育てる取組が構築できれば良い。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	中間評価と比べて、全8項目のうち、3項目で評価が下がったのは残念なことだが、その要因や背景を、データに基づいて、より詳しく分析している。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析に基づいて、適切な改善策が講じられている。あいさつや家庭学習については、家庭の教育力が問われる。しかし、特に若い保護者の意識や感覚に課題が多い実態があるので、学校として保護者への啓発をもっと積極的に行っていく必要がある。
その他		学校が目標を掲げ、その実現のために緻密な努力をしている実態を、地域住民はほとんど知らないのが実情である。学校と地域が共に子どもを育てるという観点からも、学校の取組についてどんどん地域に発信していった欲しい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○次年度、「いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつができる子どもの育成」を目標に掲げ、小・中で取り組んでいく予定である。民生児童委員協議会や自治会連合会、あるいは毎月地域に対しても発行している学園通信「ひまねき」等において、こうした取組の趣旨や意義を発信し、地域の方々の協力を得ながら、共に「あいさつができる警固屋の子ども」を育てていきたい。また地域の方々に広くアンケート調査を行い、子どもたちの実態を把握しながら取組に生かしていきたい。</p>
--------------------	---